

# 第15回「女と男の一行詩」入賞作品発表

「女と男の一行詩」にご応募をいただきありがとうございました。今回は465名から1,181作品のご応募をいただき、一般投票と選考委員による審査の結果、入賞6作品+次点1作品が決定しました。

「女と男の一行詩」とは、形式のない川柳のようなものです。「男性の家庭や地域への参画」「女性活躍」「ワークライフ・バランス(仕事と生活の調和)」など男女共同参画をテーマに家庭や地域、学校や職場で感じる思いを募集しました。



違う意見にハッとする。  
決めつけてたのは私？

最優秀賞

当たり前と思っていたけど、社会の変化に気付かないまま思い込んで自分を、廻りの人から知らされます。色々な意見が活かされた社会になって欲しいものです。

高橋 幸子さん(一般)

女性が輝く 未来の社会  
私がつくつていいですか？

優秀賞

上野 陽希さん(高校生)

「頑張れ」と  
声だけ掛けて 夫寝る。

小柳 博嗣さん(一般)

入選

決めつけず 出来る方が  
やればいい

伊藤 優花さん(高校生)

家事仕事 どちらもやり抜く  
母強し。

小林 あきほさん(高校生)

おたがいに 感謝の気持ち  
忘れずに 自分の想い  
伝え合おう

山路 海那さん(高校生)

次点

「ありがとう」と  
「ごめんなさい」が

社会と家庭の 円満の言葉

田中 梨絵さん(一般)

## 【講評】

本市の「女と男の一行詩」は、これまでの若い世代の活躍に加え、昨年度から一般の方々による入賞作品が増えてきたようです。固定的性別役割分担意識や男性中心型労働慣行など、男女共同参画を推進する上で乗り越えるべきさまざまな課題の多くは、多様性を認めない価値観に起因しています。今年度の最優秀賞に選ばれた作品は、私たちの当たり前に対して、いったん立ち止まって振り返ることの大切さをあらためて気づかせてくれた作品でした。

優秀賞と入選でも社会や家庭における画一的な考え方を省察した作品がそれぞれ1作品選ばれました。自らの生活を振り返り、私たちの常識を見つめ直していくことをテーマにしたこれらの作品は、今回の選考において秀でた共感力を持つ作品として高く評価されました。

今年度の一行詩は、女性活躍推進法が施行されて初めての実施となりました。優秀賞に選ばれたもう一つの作品は、女性が主体的に自らの未来を切り拓くことへの思いが若い世代によって詠まれており、まさに同法の幕開けにふさわしい作品でした。

感謝をテーマにした作品の多さは一行詩の特徴だと思います。男女共同参画推進の課題の一つは、使われている用語の難しさにあるのかもしれませんが、入選した2作品は、思いやりや優しさに満ちていて、私たちに男女共同参画が決って難しいことでないことを語りかけてくれているような気持ちになりました。

最後になりますが、今年度も秀作が多く、選考は熟議を重ね、最終的な結果を得るまでに長い時間を要しました。その結果、今年度は選考委員会として次点作品を1作品選ぶことを決定致しました。次点を選ぶことは決して実施要領にあるものではありませんでしたが、男女共同参画社会の実現において最も大切にすべき感謝と支えあいを表現した一行詩を入賞作品とともに市民の方々にお伝えしたいという選考に携わった委員の一致した願いが、次点の選出に至ることとなりましたことを謹んでご報告申し上げます。

「女と男の一行詩」選考委員長 岡庭義行

(帯広大谷短期大学副学長/教授、帯広市男女共同参画推進市民会議会長)

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 FAX：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成29年3月発行

●発行：帯広市

●企画・編集：帯広市男女共同参画推進員

池田 淳一・伊藤 容子

遠藤 妙子・沼田 秀実

浦端 昭道・宮本奈津子